

第6回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年9月26日 木曜日 午後1時30分～午後3時05分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	×	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	○		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	×	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	○
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	×
	泰地 ひとみ	○		田伏 ひとみ	×
	京谷 常美	○		三浦 和則	×
	宍戸 一江	×		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	×
	川上 由起子	×	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	×
3号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	○
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○細江教育推進課長

皆様こんにちは。ただいまの出席者数は14名でございます。

審議会条例第7条3項の規定により、委員の過半数を超えておりますので、ただいまから第6回洞爺湖町教育行政審議会を開催させていただきます。

次第2、会長挨拶でございます。鈴木会長、どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

皆さんこんにちは。第6回目にもなりました。1回目からいろんな形で洞爺湖町の子どもたちのためにということで、これからの方向性を各委員さん方といろいろ議論してまいりました。

8月は2回ワークショップということで、いろいろとご意見をそれぞれのところでもいただきながら、いよいよ答申に向けてということで、ある程度、核心に迫ってくる議論になってくるかなと思いますので、それぞれのお立場で、いろんなご意見等またいただければ、事務局の方も助かる部分もあるのかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

今日は事務局の説明だとかいろいろありますので、ぜひいろんな形でお聞きいただきながら忌憚のないご意見をいただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは次第に沿って議事を進めてまいりたいというふうに思います。

まずは、議事の1ということで、前回の会議においてのまとめを事務局の方から説明がありますので、それをお聞きいただければと思います。事務局よろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

前回と前々回のワークショップをもとに、ハード面とソフト面というところでも出していただいたものをまとめさせていただきました。ワークショップのまとめというプリント、2枚の表裏で印刷されているもので説明をいたしますので、皆さんの忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

この各①②③④⑤⑥ということで子どもたちの資質・能力に向けてということで、基本となるところを中心にソフト面をどうハードと繋いでいけるか、というようなところで前回、前々回含めてワークショップをしました

①コミュニケーション②多様性というところで、このデータの中をさらに大まかに括っていった場合に、この世代間の交流、小学校の繋がりであったり、中学校との交

流、また世代を超えた交流、外国人との会話というようなところで、小中連携であったり地域の方との、また外国人との交流が出されていたのかなというふうに思っております。

③主体性、挑戦、自立、夢というところで、アルバイトの許可であったりとか、また民間ですね、企業との連携をしていながら経験・体験をしていく、そういった機会を作っていくことが必要なのではないかということで、地域企業との連携ということが出ております。

④番ふるさと愛、ここはすごい項目がたくさんありました。洞爺湖町の自然に触れる体験、湖または海・山等々ですね、そういった部分の体験活動をやった方がいいのではないかと。あと、有珠山噴火に備えた減災・防災、地震・津波そういったところの災害に対しての部分もやっぱり必要ではないか。また、その温泉の部分の活用、あと産業ですね農林水産、牧畜業そういったところの産業を生かしながら、また町の行事ですね、お祭りだったりとかハロウィンとか、または姉妹都市交流、そういった部分のところも生かしながら地域ふるさと愛、地域に愛着を育む教育活動を展開することも大事なのではないか、というご意見がありました。

また⑤番目の方は学力・体力そして芸術ですね。そういった部分で幼少期からのプログラムを組織的に進めていった方がいいのではないかと。あと、お金のワークショップ、金銭的なところは算数数学の方に繋がっていくのではないかなと思うんですけど、そういったところ。また、冬の健康づくり、冬の雪を利用したスポーツなんかも意見としてありました。

⑥番、優しさ・思いやり・協働というところで、誰１人取り残さない教育。不登校にならない誰１人取り残さない教育、そういったところ。あと、子ども会、高齢者との交流、障害者施設の訪問というようなご意見ありました。

あと、学ぶ環境というところで、サークル活動であったり自治会、子ども会、文化センターの活用。そして ICT の活用。そういったところを生かしながら町の教育支援を生かしながら情報を入手して情報を整理・分析そして発信する。そういった活動も必要なのではないかというご意見がありました。

一番後ろの４ページ目はですね、豊富な教育資源と豊かな自然産業、こういったものを総動員して、今後の洞爺湖町の教育活動をどういうふうに展開していくかというようなところに、キーポイントっていうか、キーワードになってくるのではないかなというふうに思っております。一番下に地域全体が「学び」のフィールド、キャンパス、そういった視点で今後の子どもたちをどう育成していけるか、育んでいけるのかというところを皆さんで知恵を出し合いながら、今後具体的なところを進めていけれ

ばというふうに思っております。以上です。

#### ○鈴木会長

今事務局の方から2回のワークショップのまとめということで説明がありました。

細かいところはもう既に各グループでいろいろ議論されているので、この部分はある程度認識されているのかなと思うんですけども、説明いただいた資料の一番最後にこのような図があるかと思うんですけども。それをキーワードで1枚に落とし込んだ内容ということであります。

土台として地域全体が「学び」のキャンパスということで、洞爺湖町が子どもたちにとっての「学び」ということで、地域一体となってというようなことで、その上にそれぞれの内容、項目が積み重なっていると。とりわけ三角形の頂点にあるところ、「主体性」という部分と、「多様性」という部分と「協働性」という部分。そのあたりが具体的な学校教育、それから社会教育も含めた内容でいかれるのかなというふうに思うんですけど。まずこの内容をこの1枚ものを見て、さらにちょっと意見やこの辺りは具体的にどうなんだろうとか、逆に事務局の方に聞いてみる必要がある部分があればお出しいただければと思うんですけども。事務局から説明を受けて、各委員さん方の質問意見等を取りまとめたいと思いますけれどもいかがでしょうか。

はい、どうぞ

#### ○委員

これを見ればすごいわかりやすいというか、しっかりまとまっていて、1枚でわかるってのはすごくいいなっていうのが一つと、今高校ですごく注目されてるのは、日本代表の岡田武史監督が始めてるFC今治高校。そこで掲げているのが2本柱で、主体性と多様性なんですよ。

まさに、ここのこれが2030 OECD ラーニングコンパスって教育関係者の方々はご存知かと思うんですけども、おそらく今の世界標準での学校教育の指針となるものってということで一つ打ち出している中に、まさにこの主体性と多様性っていうところが、一番打ち出されてると思うんですけども、問題はここからで。これを本当にこの主体性ができる子どもと、多様性を受け入れて、対立があってもそれをきちんと越えられる。対立をきちんと話し合いながら解きほぐしながら共存できる、共生できるっていう、そういう子どもたちを作り出していかなくちゃいけないんですけど、日本は基本的にその子の主体性をどうしても奪って行っちゃう状況がすごくあると思うんですよ。

普通の教育、普通の大人たちに囲まれてる中だと、それが調査でも出ていると思うのでこれを本当に具体化するっていうところが本当にすごく課題になる。この先、具体的にするための案というか、そこを何か話し合っていけたらなというふうに思います。これをやれば、主体性が洞爺の子どもたちに身に付くよねとか、これをしていけば多様性がきっと本当に身に付くよねっていう、何か実感が持てるようなものがつかみたいというふうに感じました。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

いろんな情報を今いただきましたけど。本当にこれからの洞爺湖町の子どもたちのためにどういう方向へ進んで行けばいいのかって辺りを、今委員の方からお話いただきたいと思います。

この辺りを学校サイドといいますか、学校教育というか、その立場で現状についてご意見いただければありがたいと思うんですけども。

#### ○委員

昨日、まさしく各校の代表が集まり、これからの授業作りということで洞爺湖町として目指す姿として、今学校では主体的、対話的で深い学び、これを求めて授業改善というのを進めています。各校共通して大事なものは、子どもたちがこれまでのように、教師から一方的に教えられるのではなく、子どもたちの学びをどう主体的に自分で判断して、自分で決定して、そして調整しながらやっていくのかということが、昨日、各学校で教員が集まって、そこ大事だよねっていう話をしていますので、これから少しずつ、現に洞爺地区は結構そういう取り組みも進めてらっしゃるということで聞いてますんで、学校現場からまずはそういう主体性を求めた教育活動に変わっていくと思います。以上です。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。

まさに、学校現場でもこれからの子どもたちのためにということで、教育活動の中で取り入れて進めているというようなお話が委員の方からありました。今委員の方からも子どもの「学び」というキーワードが出て、ちょうどこの1枚ものの一番土台のところに地域全体がっていう、洞爺湖町全体というところのくくりがあるんですけども、その時点で地域として他の委員の方から何かご意見、ご要望等あればお出しいた

だければと思うんですけどいかがでしょうか。今のお話なんかも聞きながら、ぱっと頭に思い浮かんだワードでもいいですし、何か感じたこと、その辺りなんかもお出しいただければ。ありがたいなと思うんですけどいかがでしょうか。

#### ○委員

すいません、地域全体ってすごく重要だなと思っていて、虻田で子ども食堂をやっていて、地域食堂なんですけども、うちの地域食堂はほぼ子どもたちが9割みたいな子ども食堂で、30人ぐらい集まるような感じになっていて、毎週土曜日やってるんですけど、場所が母と子の館というところに移って、ここが要するに児童館として使われてるんですよね。

正直、その中で僕らが子ども食堂を運営する立場で子どもたち30人と関わる形と、児童館の管理人として、ここのルールを守ってもらいたいという関わりだと、基準が違うんですよ。注意をする子どもたちに対しての注意をする基準が変わって、単純に言うと、僕らがゆるすぎて、管理人がすごい厳しいんですよ。あの厳しさが入ってしまうと、子どもたちの居場所にはならない形になって行っちゃう。

実際に不登校の子どもたちが通える、来てくれるようになってるんだけど、あの厳しさが入っちゃうと、不登校の子どもたちの居場所を奪ってしまうということがあって、地域全体ということなので、学校現場でまさに始まっていただけっていうお話があったと思うんですけど、他でも子どもたちと関わる僕たち、いろんな資源、いろんなチームが、ちゃんとそこを本当に主体性を、子どもたちの主体性をを大事にするような関わりをして行かないと、実はちょこちょこところで子どもたちの主体性を奪う関わりって結構起きちゃうんだらうなっていうのを、危機感をちょっと感じてます。

#### ○鈴木会長

まさにおっしゃる通りの部分かなと思うんですけど、どうでしょうか。他の委員の方から感じたこととか、いろいろと出していただければと思いますけども

#### ○委員

保育所で仕事してるんですけど、札幌国際大学のちょっと教授の方のお話を聞く機会がありまして、今の学生は実習とか受け入れても、とにかくその失敗を嫌がる。挑戦してくださいって言っても挑戦をしない。何かやりたいことあるのって言っても、いや今のところ特についていう答えが多くて、大学の方でも何かチャレンジっていう姿

勢がないので、失敗を受け入れる世の中でないっていうか、とにかく失敗したらもうそこで終わりみたいな、そういうところがあるんですっていう話をちょっとしてて、子どもたちも、保育所の子どもたちも今すごい主体性っていうのが指針の中にも結構入ってくるんですけど。子どもたちの主体性を優先して、どんどんやらせていくと何が起こるかって言ったら、親たちに不評になるんですよね。親たちが何やってるかわかんない、そこで軋轢みたいのが出てきて調整取るのがすごく難しくて、やっぱり周りがどれだけその主体性っていうのを理解するかっていうところが一番大きいんじゃないかなと思います。

すぐには多分理解できないんじゃないかなと思うんですけど、主体性って何？って言われれば、子どもたちが自由にやれる、選択して自由にできる環境を整えるのが大人の仕事なんですけど、それを見るっていう行為になると、今度大人たちは自分の価値観で見てしまうので、理解できない。それが年齢が上がってくれば上がってくるほどわからない。集団の中で教育を受けてきていると、そこはちょっと理解できないのかなというのを感じることはあります。

#### ○鈴木会長

多分その主体性って何ですかって聞かれたら、各自に答え方が違うんでしょうね。主体性というイメージがちょっとなかなかそれぞれ違って、やっぱり若い方と、ある程度経験のあるベテランの方々の主体性、子どもにとっての主体性とはっていうのもあるし、そのあたりが多分これから洞爺湖町の子どもたちのためにというところで、いろいろ考えていかなきゃいけない。具体的なものが今この委員さん方のワークショップ、2回の中で、各委員が気づかれた部分だとかにあるのかなっていう感じですけど。今、大学の話が出たんですけど上林副会長どうですか。大学教員としては、今の学生の様子なんかどうでしょうか。

#### ○上林副会長

私も去年から勤めてるんですけど、私の時代とは本当に変わったのは、基本的にまずスマホが生活の道具になっていて、そして必要な情報はすぐスマホを通して得られるっていう、そういう生活を学生の方はしていらっしゃるんですよね。よく話すと思うのはまずタイパ（タイムパフォーマンス）っていう、自分がかけた時間がどれぐらい自分にとって価値あるものかっていうような、その判断基準とか自分のお金を支払った要するにコスパ（コストパフォーマンス）。払ったものがどれぐらい自分にとって必要なものかということで、そのセンサーっていうか、そういうものが素晴らしいと

いうか、すごいなってふうな話で感じるところがたくさんありますね。

私なんかの時代だったら大学って教養を身につけるわけじゃないですか。自分に関係ないものを学んでいって、そして幅広い、いわゆる教養っていうのを見つけるのが大学の4年間のはずなのに、自分にとって価値あるものだけ選んでいくとすごく狭い教養しか身につけていけないんじゃないかなって。そういうちょっと心配はするところですよ。

だから本当に自分とは関係のないと思われる、一見関係ないと思えるところに飛び込んでいくことがやっぱり必要だなと思いますし、それによって新たな世界が、視野が広がって、それで豊かな人間性を育むっていうのはやっぱり大学生にもあるので、多分それは小さいうちから、自分にとって居心地の良いところだけじゃなくて、多様な人とやっぱり触れ合って、外国の方も含めてですね。そういう経験というのは多分大人が後押ししなきゃいけないと思うんですけども、そういうのを積み重ねていくことによって変わっていくんじゃないかなと、育っていくんじゃないかなというふうに思いますね。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます、すいませんいきなり振りまして。

私も大学の教員として3年目になるんですけど、まさにコストパフォーマンスじゃないですけども、自分の得るものには一生懸命。グループワークがなかなかできないっていうのはそこなんです。グループで活動してとなると、自分の価値あるものにはもうグループで一生懸命その中でやるんですけど、なかなかやっていることによって自分に得るものがないとなると、形としてはやってるんですよ、表面的には話はしているんですけど、本当に個人がストンと落ちているのか、学びとしてとなるとということがあるので、今の学生さんのなんていうか価値観というか視点で、視点というのは自分の若い頃とは違うなって、非常にやりづらいです。教員として大学生に対してはZ世代とか何だかっていうのがありますけども、そういう議論の中で、この洞爺湖町の子どもたちがこれからどういうふうにしてこの洞爺湖町を出て、また戻ってくるのか、どういうふうな学びが地域全体でというところが、多分これからの洞爺湖町の方角性としてあるのかなっていう、そんな形をちょっと思って聞いていました。

実は今、皆さん方の意見をいただいた部分については、この1回目のときに諮問をいただいた部分の最後にどういう諮問を受けたかっていうと、洞爺湖町立学校における特色ある学校作りと教育環境の向上に関する総合的な方策について諮問を行うっていう、そういう問いなんですね。多分特色ある学校作りということで、こういう子ど



もにしていきたいとか、こういう方向というのを今議論されていると思うんですね。これをどういうふうにして、地域全体で学びを構築していくのかっていう辺りの教育環境というもの、これ箱ものも含めてですね、こういうあたりが多分これが一番のこれからの肝になる部分でないのかなという感じはします。

2回のワークショップのハード面のワークの中でも、教育環境ということでいろいろと議論された部分があるんですけども、この後、事務局の方から議事の2と3、学校のあり方についての提言と適正配置計画という、これまで議論されてきたものの内容を改めて事務局の方から説明をいただいて、それについてまたさらにちょっと深掘りしながら、意見を各委員さんの方からいただければと思いますので、それでは事務局の方から議事の(2)と(3)を合わせて説明をお願いしたいというふうに思います。

#### ○山本教育指導参与

はい、ありがとうございます。

もう一つの資料、義務教育の目的・目標に入る前に、第3回目にお示した平成25年と平成26年の約10年前に出されたものをちょっと振り返りながら、そこも押さえながら進めていきたいというふうに思っております。

資料はないんですけども、平成25年洞爺湖町の小・中学校における子どもと学校のあり方についての提言というところで、主なところというようなところですよ。検討の視点ということで六つありました。学校種別の視点、検討対象校の視点、学校規模の視点、通学時間の視点、地域性の視点、というところでありました。適正配置を考える視点としましては、小学校教育の部分に関しまして、社会で健全に生きていく上で最低限必要なことを学ぶことの楽しさや社会性などを身につける。中学校教育では社会生活に必要な基礎的知識と技能、公正な判断力を養い、個性に応じ、将来の進路を選択する能力を身につける、ということで、10年前は小学校、中学校のみをどうするか、ということでそれぞれ検討をしていったという。対象として町内、当時は温泉中も含めてということで6校対象としてありました。

学級の数々の視点というところで、10年前の部分で小学校として望ましい学級規模として12学級、各学年2学級を原則として、存続する学級規模として6学級、各学年1学級を原則として統廃合を検討する規模は5学級。複式学級が一つあったら5学級になりますので、そうなった場合に統廃合を検討する必要があるだろうということ。中学校としましては原則で統廃合を検討する希望として2学級以下というところで、児童生徒数の視点ということで、学級規模検討にあわせて児童生徒数の教育環境に与える

影響も考慮しながら、という視点でありました。通学時間としましては 45 分程度、地域性の視点としまして、地域事情を十分に考慮して地域の雇用を尊重しながら行う。施設整備の視点としましては、安全のための施設確保、適正配置、財政の適正運用を総合的に検討して、というところでありました。

もう一つはですね、このあり方検討会を受けて、次の年に適正配置計画がありました。小中学校の課題等、今後の児童生徒の減少が見込まれる中、町内小中学校では温泉小学校を除き、古い年代に建設されたものが多く大規模修繕を要する学校もある。ハード面においては、温泉小学校を除き耐震化工事や大規模改修など何らかの多額の費用を要する課題を抱えている。教育環境の整備は、この度の適正配置において小中学校ともに新しい校舎を建設するということは考えておらず、既存の校舎等を活用することを念頭に置いている。温泉小学校を除き、耐震化工事や大規模改修など、多額の費用を要する課題。洞爺湖町全体の耐震化工事を完了したら虻田小学校の大規模改修、そして各小学校のグラウンド改修等について計画を立てて実施する必要ということで、10 年前のあり方の部分と適正配置の部分の答申ということでありました。これを踏まえて次に進めていければなというふうに思っております。

以上です。

#### ○鈴木会長

10 年前ですか、洞爺湖町の学校のあり方についての提言、さらに適正配置計画ということで議論されていたことのベースが積み上げてきているという部分と、これからの洞爺湖町の教育をどうするか、というあたりでこの答申の中にどういうふうに盛り込んでいくのかというあたりが、各委員のご意見も踏まえてという形になるんですけども。

まず、10 年前のこのあり方についての提言適正配置計画についてと、これまでの議論と検討といいますか、各委員考よりご意見というかご感想というか、そのあたりも含めて何か委員の方からありませんかね。

#### ○委員

いいですか。

このときには小中一貫教育という考えは全くなかったということですか。

#### ○山本教育指導参与

ないです。それぞれの学校ごとの部分なので、このときの部分はないですね。小中

一貫をどうするかっていうのはありません。

○委員

あくまでも現状の形の学校運営ということの校舎をどうするか、というようなところですか。

○鈴木会長

今、良い指摘を委員の方からいただいたかなというか、10年前の議論の背景にあるものが10年経って今やっば違ってきているんですよね、時代の流れとともに。

この辺りに、だからゼロではないんですけど、この10年前のこのあり方検討とか配置計画を踏まえて、今の時代、またこれからの将来の時代を考えてどうするかっていう辺りも、ちょっと肉付けしてあげないと、まさにこの当時は小中一貫教育っていうイメージはなく、まず箱ものをどうするかっていう議論だったんじゃないかなと思うんですよね。子どもの数が少なくなってきた。たださっき言った学びを考えたときに、やっぱり連続性ということで、小学校1年生から中学校3年生まで一緒のところ、または人数がそれなりにとかいう、またその地域性っていうのもいろいろあるということ、そのあたりの絡みが、多分この後の大切な議論になってくるのかなと思うんですけどいかがでしょうか。

○委員

この10年間の間に、その施設の課題とかそういうものに対して何か手を打ったとか、そういうのはあるんですか。

○鈴木会長

これまで10年間で施設とかそういうもので教育委員会として手を打ったという、予算をかけてやったとかいう辺りですか。

○山本教育指導参与

それぞれ修繕は個別に対応をしてはいたんですが、その大規模っていうところまで至ってはいないので、その対応がどのタイミングであったりとか、どうするかっていうのは今後の議論になってくるのかなとは思いますが。

昨年度は虻田中学校にいたんですけども、何か修繕があるときにはその都度修繕をしながら、というようなところで現在に至っているというところであります。

#### ○委員

僕らも地元に洞爺高校があったんだけど、あれも古くてね建物が。何度も新しくしようとかいろんな意見も出たんだけど、その子どものこととかっていうところをいろいろ考えてきて、最後は閉校という形になりましたけども、その都度、危険な箇所は修繕してやってきてるんだけど、何か虻田中学校はあまり良い状況ではないですよ現状は。あれは結構急ぐんじゃないですか。

#### ○山本教育指導参与

第2回目のところでも皆さんにいろいろ施設を見ていただいた部分で、まずその現状を把握して、今後どうするかと財政の部分も含めてというところで検討をしていきながら、その今後の方針というか、見通しを出していくっていうようなところになってきますので、意見を頂戴しながら、より良い方向というか、環境作りも含めてどうしていくかっていうところで意見を出してもらえたらなというふうに思っております。

#### ○細江教育推進課長

すいません。今ご意見が出ましたのでお話をさせていただきますと、虻田地区の学校が古いというところで。虻田中学校の部分につきましては、令和8年の4月に虻田小学校の余裕教室の方に学校を移転する予定で進めている最中でございます。

この後、いろいろ決定しなきゃいけない部分がありますので、まだ予定というお話ししかできませんけれども、令和8年4月を目途に虻田中学校は虻田小学校で授業を開始する。それは小中一貫教育をその時点で始めるということではなくて、とりあえず今の虻田中学校の教育環境が著しく、やはり暖房が壊れてきているですとか、かなり老朽化しているということがあって、先に校舎を移転というところを考えて、令和8年の4月からの授業を開始ということを目途に動いている状況にあります。その部分だけ報告させていただきます。

#### ○鈴木会長

はい、令和8年4月に向けて箱ものの方ですね、虻田中学校を虻田小学校に一体としながら、この後どういうふうな方向に持っていくのかっていう議論というところが事務局の方から出されましたけども、何かそれについてのご意見だとか、何か各委員の方からありますか。もう少しちょっと聞きたいとか、そのあたりも含めて箱ものの修繕といってもその場のぎといえますか、言葉としてはもうその都度その都度とい

うことで、最終的にはこの長い目で見て将来的にどうするかっていうことが多分事務局としても、または洞爺湖町としてどうするかっていう議論が、この答申の中にも盛り込む形になるのかなと思うんですね。

今その箱ものだけをハード面だけ議論しちゃうと結局予算だとか、いろんなものが出てくるんですけど、そもそも洞爺湖町の子どもたちのためっていうことで、前回2回はですね議論しながら、こういう子ども、目指す子ども像というあたりの議論をしてきましたので、それもあわせて教育環境をどう向上させていくのか、という視点でも各委員からのご意見いただければありがたいなというふうに思うんですけどもどうでしょうか。

#### ○委員

給食センターの話のときに、やっぱりハード面の話とかソフト面と何か分けて考えるような状況になってしまって、それで何かうまく進まないような感じがあったので、やっぱりこういう教育をするためにソフトもハードもどうやっていこうっていうのが必要だと思うんですね。ただやっぱり一つ、新しい学校をどんと建ててしまっからっていうのはきっといろんなリスクもあるでしょうし、もし令和8年に虻田が小学校中学校が同じ建物の中でやるのであれば、そちらをまず小中一貫のような形で進めるみたいなことはできないのでしょうか、とちょっと思いました。

#### ○鈴木会長

小中一貫の一つですね。段階的なステップとして、どうだろうかっていう話が今委員の方から出ましたけども、そのあたりの事務局からの回答というのはまだないですよ。そういう具体的なものっていうのは。

#### ○細江教育推進課長

そうですね、今の時点では箱と同時に今のソフト面、中身も小中一貫っていう部分に関しては小中一貫義務教育学校という部分で始めるとなるときに、やはりいろいろなそこまでの事務的な準備ですとか、学校間の準備だったりとか、実際には義務教育学校にするということは今の虻中、虻小のことを例に挙げますと、2校を閉校して一つの学校を立ち上げるというような形になってくるので、立ち上げる準備と閉校の準備というところが学校現場においても発生する状況にあるので、期間っていうのがやはり1年とか2年ではなかなかできないのかなというところで、やはりある程度一定程度の準備期間は必要だなというところで、今回そこを同時にということではなく

て、虻田中学校も実際には耐震化をやっていきますので、建物自体は崩れたりとか何とかがっていうそういう部分での心配はないんですけども、ただ老朽化がかなりひどいというところで、先ほどの話じゃないんですけど、暖房がちょっと一部壊れてしまったりとか、そういう子どもたちが教育を受ける環境としては、あまり望ましい部分がないっていうところがいろいろな部分で出てきているというところで、そこを早急に教育を受ける場所を先に確保しようというところで、校舎の移転というところを先に進めてきているというのが今の現状です。

#### ○委員

町で一斉にこれを始めるとかって本当にハードルが高いと思うので、やっぱり虻田地区と洞爺地区では何となく文化的な部分、地域性とか結構違いとかもあると思いますので、それだったら虻田と洞爺とやりやすい方から始めてみるみたいな、そういう一つ何かモデルケースみたいにやっていってみたいの方がなんかスムーズなのではないかなって。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。今の意見に対して他の委員さん方どうですか。

今、そういう話が出てますけども、多分このあたりが答申の中にもこの委員会として1項目入れることも大切なのかなと思うんですよね。いきなりこれやります、とか、これしてくださいっていう答申ではなくて、うまくいろんな委員さん方のご意見があって、こういうようなことも出たとかっていうところが、多分答申の中に盛り込んでいかないと次に繋がっていかないかなと思うので。ぜひそのあたりも含めて、各委員さん方のご意見というあたりもちょうともう一つ二ついただければありがたいなと思うんですけどどうでしょうか。

#### ○委員

例えば同じ建物の中で小中が一緒にやるとなったときに、その共通の事業というか何か交流みたいな場を持つような考えはあるのかなっていうか、そこで交流ができるような。となると一貫教育の前段になるのかなっていう気もするんだけど。

#### ○細江教育推進課長

その部分に関しては虻田中学校が虻田小学校に入るという部分で、虻田の小中学校、両方の学校とも相談しながら交流できる行事とか、そういうものはそういう形で

持っていきたいというふうには、今の段階での前段での打ち合わせではそういう考えも持っていきたいですねっていう話はさせていただいてます。

○鈴木会長

よろしいですか。あといかがでしょうか

○委員

中学校が小学校に入るときは、設備の面でどのくらい、その何ていうんでしょうか、中学校の部活とかいろんなやっぱり違いがあると思うんですね。それがどのくらいちゃんと整備されるとか、そういうどのくらいの規模で綺麗にできるっていうのは何かあるんでしょうか。

○山本教育指導参与

令和８年度に向けてということで、今その方向性というようなところで、その際に地域協議会を３回会議を開いた中でたくさんご意見をいただきながら、また中学校・小学校、今後小学校に入ってくる幼稚園・保育所の保護者を含めてたくさん意見をいただいております、それを踏まえて今後どうするかっていうところは令和８年度に向けてということで進めていく予定ではおりますけども、今具体的にどうするかっていうのはないです。

○委員

改築の規模とか、具体的にこれをどうするっていうのはまだないということですね。

○山本教育指導参与

はい、まだそこまではないです。ご意見いただいてそれを整理してというところですよ。

○鈴木会長

多分、中学生の学びをまずは確保するというところで、小学校に入ってそのとこで多分、ちょっと中学校と小学校の体力の面だとか、そういう部分での違いでちょっと変えていくだとか、そういうハード面の部分も出てくるのかなっていう洗い出しが出てくるんじゃないかなと思うんですね。

#### ○細江教育推進課長

私の方からもすいません、ちょっと補足というか、今虻田中学校の件でというお話の中で、今年度に入ってから教育行政審議会とは別に虻田中学校を虻田小学校に移転するという形での協議会、地域の人とか学校とかを含めた協議会を立ち上げまして、その会議の中で今3回の会議を開催して、一応そこから一定程度の報告という形で報告書をいただいています。

その中にはもちろんソフト面であったりとか、ハード面の改修的な部分のご意見もいただいています。この後、この会議の中で諮問をさせていただいたものから答申をいただいて、その答申から今度うちの町の教育の現場、義務教育学校にしていくのか、そういう部分がある程度決まっていく形になっていくのかなと考えております。

ですので、一旦今の時点ではどこまでどのぐらい改修するよ、というのは申し訳ありません、この場ではまだお話できる状況にはないんですけれども、段階を追って改修等も検討はしていかなきゃいけないなということは考えております。ソフト面の部分で体育館の使用ですとかグラウンドの使用については、もう実際に小中一貫校であったりとか、義務教育学校という部分を実施している市町村もございますので、そちらの小中学校等の意見を参考にしながら、やはりより良い、うちの学校の形に合ったもので進めていきたいなというふうには考えております。

以上です。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

虻田中学校が小学校にっていう、その話題の中でちょっと議論されてますけども、あくまでこの審議会としてどうするかっていうところですので、先ほど申し上げたように段階的にということでもう委員の方からもご意見ありましたので、そのあたりはきちっと答申の中にも位置づけながら、それを今後どうするかっていうことは整理していった欲しいという要望を答申の中に盛り込むことは可能かなっていうふうにちょっと私なりに思ったところでした。

後いかがでしょうか。はいどうぞ

#### ○委員

説明があった学校のあり方についての提言とか、適正配置計画っていうのはもう10年過ぎてるんですね。だから、そういうのをまた中身を検証して、将来集計も変わってきてるという部分もあるのと、先ほどから言われている小中学校一貫教育って



う教育の環境もまた変わってきてるっていうのがあるんで、その辺りをやっぱり答申の中にも少し反映して、その計画の見直しだとか、そういうのもすべきであるというようなことを入れていった方がいいんじゃないですか。

○鈴木会長

はい、ありがとうございますご指摘の通りだと思いますね。

10年前とはまた時代も違いますし、子どもの数も違いますし、当然いろいろ箱ものですので、古くなったりいろいろ出てくるということを踏まえて答申の中にあるという話で、ありがとうございます。

後いかがでしょうか。

○委員

洞爺中学校と小学校のPTAの方でも小中一貫の話は出ていますが、何か別の場であだこうだ言っても話が見えてこない方もいると思うので、虻田地区とか洞爺地区とかそれぞれの話し合いをこの協議会ではなくて、小中一貫についての話し合いの資料みたいなのがないと、盛り込むも何もないような気がするんですけど。

どこまで地域の人たちがどう考えてるのかっていうのがわからないと、ここで僕たちが言ったところでっていう感じだと思うんですけど、どうでしょうか。

○鈴木会長

そのあたりの事務局の方はいかがですか

○山本教育指導参与

ここで決定するっていうことじゃなくて、いろんな案があるという。その案を出していただきながら、それを地域の中で、またそこで協議を重ねていって決めていくという方向で考えているので。

○委員

こっちが先ってことですか。それを保護者に落としていくっていう流れなんですね。

○山本教育指導参与

学校運営協議会であったりとか保護者会であったり、そこでさらに揉んでいただい

てベクトルを合わせていくというところで考えています。

○委員

だったら、なおさら今出ている声は、僕らは知るべきじゃないですかね。

その小中一貫について出た意見は、今何も知らされてないですよ。この場では。

○山本教育指導参与

学校運営協議会の方にはできるだけ足を運んでいます。

○委員

そこでどういう話をしてたのかっていうのはここで多分僕以外はわかりませんよ。それがないと、地域の方がこう思ってるからこうしたらいいんじゃないでしょうかとか、そういう話にならないと思うんですけど。

勝手にここで決めたところで、仮に代表みたいな感じで出てますけど、僕の意見を洞爺地区で通すわけではないと思うので。

地域の人たちの考えがあって、それからどうしましょうの方がより具体的に話し合えるんじゃないのかなって思うんですけど。

○角田社会教育課長

すいません、学校運営協議会でもいろいろお話し合いされていると思うんですけども、できれば学校運営協議会で出たご意見を、こんな意見あるよというのを、ここであっていただいた方がいいかなというふうに思います。それをもとにこの答申案っていうのをまとめていくと。

PTAの会長さんがこのメンバーに入っていらっしゃるので、当然その学校運営協議会ですとかPTAの役員会ですとか、そこで出た意見というのをそれぞれの学校で把握されてると思うので、それをちょっとむしろここで発表していただく方がありがたいかなというふうに思います。

○委員

はい、発表していいですか。

洞爺地区は、小中一貫について反対っていうことは全然ないんですけど、現実的に考えて小学校に中学校が入ることもできないですし、中学校に小学校が入ることもで

きないので、新校舎にするしかないよねっていう話と、あとは別々の小学校、中学校で別々の校舎で学んでいながら一貫っていう形にすることに対しての今と比較して、すごくメリットがあるっていうふうには多分皆さん思っていないので、まず、何かすごくいいねっていうことでない限りは、一貫にすることに意味はあるのかなっていうのは感じてます。

#### ○鈴木会長

おっしゃる通りですね。

そういう子どもたちが小学校、中学校一緒になってという学びが、本当に子どもたちのこれからの生きる力と繋がっていくのかってあたりがきちっと伝わっていけば、当然、保護者の方とか、当然あれだと思うので。

義務教育学校で小中一貫というのは多分この後事務局より説明あるんですか。

この分離型とか、いわゆるその箱ものが予算がないから既存のもののある程度使いながら小中一貫教育していこうとかっていうのもありますので、予算がかけれるところは、一体型のっていうのもあるので、そのあたりも含めながら、小中一貫教育のやっぱり良さとかですねメリット、デメリットっていうのをここで確認していただきながら意見をお伺いいたしながら答申に入れていくことがすごく大事ですしね。

もう1回、諮問の中では、いわゆる総合的な方策なので、これを諮問しますって言われてますから、いろんなものがいろいろ答申の中に盛り込まれていいと思うんですよ。総合的な方策ですから、具体的にそれを各運営協議会だとか、そういうところにも降ろしていただくとかそんな形が出てくるのかなと思うので、ぜひそれぞれの立場もありますので、いろんなご意見を出していただくことが、すごくこの審議会としては大事なかなと思いますので、ぜひそこもご理解いただきながら今、この事務局の方からちょっと説明をもう1回、もう一つありますので、それを聞きながらまたちょっと議論を深めていければなと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### ○山本教育指導参与

資料もう一つの方ですね。

義務教育の目的・目標についてということで改正がされました。(1) 義務教育の目的っていうところで各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培いということも入って、(2) 番目、教育の目標というところなんですけども。第3回目、第4回目のワークショップで出された皆さんの内容ですね、そういったところがここに凝縮されているのではないかなということで思っております。

①番ですね、学校内外における社会的活動を促進し、自主、自立、共同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画する。②番、学校内外における自然体験活動を促進。③番が我が国と郷土の現状と歴史について、伝統と文化を尊重し、外国の文化の理解を通じて、という文言が入ってきております。④番、家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業、基礎的な理解。⑤番目、読書に親しませ国語を正しく理解し、⑥番、生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、⑦番、生活に関わる自然現象を観察実験等を通じて科学的に回収処理する基礎的な能力を養う、⑧番、運動を通じて体力を養い、⑨番、生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養う。⑩番、職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んじるということで、教育基本法と学校教育法、これが改正されております。この文言は皆さんから出された部分と、もう全くこういったところを目指しているというところで一致しているのかなというところなんです。この方向性を大事にしながら、今のこの現状を確認したいと思います。

2 ページ目に行って児童生徒数と学校規模です。以前も若干お示したところもあるんですけど、今の中学3年生から0歳、令和6年度というところ、これから来年4月1日までに生まれてくる子どもの数、住民課の方でちょっと資料を出してもらっていることで数字を入れました。虻田中、虻田小学校、温泉小、虻田地区合計というところで数字を出してます。5番目6番目7番目は洞爺中、とうや小学校、洞爺地区合計という、8番目が洞爺湖町全体というところで出しております。中学3年生のトータルが46名。それが小学校の2年生は55名というところで多くなっているんですけど、そこから徐々に減少しているというようなところで、来年度4月までに生まれてくる子が極端に現時点で少ないというようになっております。今後どうなるかっていうのはわかりませんけども、現時点での中学校3年生から来年度までのところの数字は、今後の児童生徒の推移というようなところで、生徒数ですね、各小中学校の生徒数を逆に(3)番目の平成元年からの児童生徒数ということで平成元年が町内の小学校児童数小学生が937名、町内の生徒数が654名ということで、ここを基準にして、これを1とした場合に、今わかっている令和13年では、町内の児童数が178名。令和19年の中学生の数が67名ということで、約50年の間に町内の生徒数は10分の1に激減しているという状況になっております。

(4)番、学級のところになってくるんですけど。複式学級の配置基準というようなところで、現在温泉小が4学級で、そのうちの二つが複式学級ということになっております。小学校の複式学級の配置基準ということで学級の人数が16人以下。2学年合わせて16人以下であれば複式。中学校の場合には2学年合わせて8人以下であれば複

式学級になります。先ほどの情報を見ると、洞爺地区が来年度の出生数が1名ということになっていて、その数がどうなるかは今後わかりませんが、令和20年度から洞爺中が複式学級になる可能性があるということになっています。

今後の人口、3ページ目をご覧ください。財政状況というところで、少子高齢化というところで市町村の収支、財政状況は非常に厳しい状況は今後も続いていくというところ です。

4ページ目をご覧ください。今後どうするか。小中一貫教育をやっぱり見据えていきながら子どもの学びをどうするかというところを考えていかなければならないんだなということがあります。小中一貫教育の経緯というところで、①から⑤まで義務教育の目的・目標の規定が改正されました。二つ目に教育内容や学習内容の質の高まりと量が増えてきているという状況。あと、子どもの発達の早期化というところ。中1ギャップの解消。小学校から中学校に上がる段階でのギャップですね。学習環境だったり、生活の部分であったりというところの解消。少子化に伴う学校の社会性育成機能の強化の必要性があるのではないかというところで、小中一貫教育、義務教育9年間の小中一環というのはその計画です。カリキュラムを1本通して、それを元にして進めていく必要性があるのではないかというところから小中一貫教育が出てきております。

(2) 番目、小中一貫教育とはということで、学校地域で目指す子ども像を共有する義務教育9年間を見通した教育課程計画。連続性・系統性を大事にしていく。③番、教職員集団の強化に繋がる。小学校の先生は中学校、中学校の先生は小学校を見ながら9年間を見据えた中での教育を考えるきっかけになる。④番適切できめ細かな指導と学力の向上、生徒指導充実に繋がる。また、主に学習の部分でより丁寧な指導がされている小学校の学習、また中学校でより専門的な教科を教える、その小学校と中学校の先生が一緒になって子どもたちを9年間どういうふうに育てていくかという、そういう効果があるのではないかということです。

2番目、小中一貫教育の二つの形態というところで、まず右側、小中一貫型小学校・中学校というところで、小学校6年間、中学校3年間それぞれに校長先生がいる、教員組織が別組織、これは計画を一本通していく中で別組織の中で進めていくという形態。それをさらに発展させた形が義務教育学校ということになります。9年間校長先生1人で小中の区別なく一つの組織体として、9年が子どもの教育に携わるということになります。

その下の表、義務教育学校と小中一貫校というところで区別しています。運営組織が義務教育は1人の校長先生、一つの教職員室で組織。小中一貫教育校は二つ別々、

あと免許は原則義務教育学校は小中学校の免許が必要であると。あと教育課程の部分に関しましては、その9年間の系統性、連続性これも配慮された形で目標を作って立て、その学年の段階をどう区切っていくか、必ずしも6・3ではなくて、ここで書いてある4・3に分けるとか、5・4に分けるとかというような、その計画の中で柔軟性を持たせてくれるっていうか、ソフトをいかに進めていく中で、この教育課程をどうするかというところを幅広くいけると。さらに、義務教育学校であれば一つの組織体でいけるというような違いがあります。

5 ページ目に行って、昨年度教育委員会の講演会に大沼岳陽学校の大橋校長先生に来ていただいて義務教育学校の説明をしていただきました。自分が中学校のときの学校の先生で、非常に懐かしい思いをしたんですけども、メリットの方ですね。児童生徒の発達段階に応じた長期的な見通しを持った指導ができる。乗り入れ事業が容易に可能となる。ということで、中学校の先生が小学校に出向いて、6年生の授業を教える、5年生の授業を教える、また、そこに小学校の先生がサポートとして入る。そういったことも容易になる。また、新たな学校文化を構築しようとする教職員に勢いがある。新しい教育をどうするか、子どもたちをどう育ていけるのかというところで勢いがあるということが出ましたということでした。小学校、中学校経験の教員が共存する。教頭が2人体制で学校運営がスムーズに展開できる。6番目なんですけども、9教科の専門教師が揃う。さらに、この副校長、養護教諭を一般教諭に置き換えが可能ということで、義務教育学校になった場合、加配ということでプラス先生がついて副校長が総括担当として1人分が加算される。だから、その副校長を例えば一般の先生に変えることもできるという。あと、養護教諭が2人になる。でも一つの学校であれば養護教諭の1人を一般の先生に変えることもできるということも可能である。あと7番、前期課程担任（小学校）でも空き時間を作ることが可能。これは学校の中での部分なんですけども、小学校の先生もびっちり児童につきっきり、そこに中学校の先生が入ってきたら小学校の先生でもその空き時間に教材研究ができるという部分もあります。

あと、デメリットというところで、教員の空き時間数の差と放課後を考える時間の働き方の違い。中学校は部活がありますから、小学校にはクラブ活動はあるにしても、そういったところの働き方の違いは少しあるのではないかと。あと先ほどもありましたスペースを共有することから、その施設とか設備の工夫・充実が必要になってくる。あと人間関係が固定化されやすいということがあります。あと4番、義務教育学校における形態ということで、設置イメージとしては施設一体型、また、施設分離型もいろいろ調べてみましたがこの施設分離型というところも実際にありまして、皆

さんに紹介します。

鳥取県鳥取市の鹿野町にある校舎です。鹿野学園流沙川学舎と王舎城学者の校舎が750mほど離れてるっていうところなんですよ。ここで今後教育をどうするかっていうところで、教育を考える会を設立していきながら、小規模化による課題を解決するために、中学校を残して小中一貫施設分離型を設置するという事例です。そして、この中で先ほどお伝えしました義務教育学校の選択肢は魅力的。独自の教科を設定でき指導内容を入れ替えなども柔軟に教育課程を編成できる。学年の区切りですね。例えば中学校に小学校6年生を持ってきて4年、小学校5年ということで、そういった部分も可能になるよというようなところですよ。どうしてもこの分離型のデメリットは中学校として何も変わらないのではないかと、という意見があるということ。実際6・3のところを5・4にしてってということでスタート、実施しているということですよ。柱の2番のところになってくるんですけど、地域素材を活用した特別の教科を設定して、地域のふるさと教育、これを柱として進めていっているという内容になります。それから、1年から9年生までということで、中学校の方はこの6・7・8・9年生を、小学校は1年から5年生ということで、1・2年生は初等ブロック、3・4・5年生は中等ブロックということで、または中学校を6年生から持ってきて総合・探究できる学びづくりということで、一部教科担任制ということで、中学校の先生が小学校4年生、5年生あたりに入って行って授業を教えていく。新設教科の表鰯科（あらわしか）ということで、地域ふるさと学習ですね、これを軸にして1本これを通して進めていっていると思っています。ふるさと教育の表鰯科ということで、地域と連携した教育を進めているということで、こういった部分で義務教育学校を校舎分離型で進めていくというような事例もありますというところの紹介です。

今後の人口の部分であったり、小中一貫教育・義務教育学校の部分ということで説明させていただきましたけども、こういった部分を踏まえて、今後どうするかというところでご意見いただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

#### ○鈴木会長

はい、かなり専門的な用語で大変だったと思うんですけども。

まず、義務教育の目的・目標については、これまで2回の皆さん方のワークの中で、こういう子どもにしていきたいとか、そういうものが盛り込まれているってところで、方向性というか皆さん方の思いは、もう法的なものでこういうふうに整理されているということで、方向性は間違っていないと思います。

それから、2ページ目、3ページ目の部分については、時代とともに変わってきてい

るということで、先ほど委員の意見もあったように、10年前のあり方検討だとか適正配置のことを見直していくっていう項目が必要だということ、この辺りのデータとして受け止めてもらって、その後は小中一貫教育についての説明がありました。ただ、やっぱりメリット、デメリットを学校の中だけじゃなくて、皆さん方の要望で地域とどう連携するかとか、地域全体で子どもの学びを構築していくのかっていうことが、これまで委員さん方の話とか出てきていますので、その辺りしっかりと地域の方にもメリット、デメリットをわかっていただいた上で、どうするかっていうあたりが、多分この中の答申の中に入れ込んでいく必要があるのかなというか、先ほど出された委員の虻田中学校が小学校に入るというのを一つのモデルとして、それをどうするかっていうことも、やっぱり考えていった方がいいっていう項目もあっていいのかなと。また、PTAの意見だとか、地域の意見というのも当然違いますので、そのあたりは十分に踏まえるっていうことはすごく大事なのかなっていうことを今事務局の説明を聞きながら、ちょっと私なりに感じたところをお話させていきました。

今の説明の中で何かちょっと感じたこととか思ったこととか、質問と言ってもなかなか難しいと思うのですが、どうでしょうか。

#### ○委員

質問いいですか。

5・4にできるっていうことは、例えば中学校の校舎に4学年入って、授業の何て言うんですか、スパンはもう1から9っていうことなんですね。例えば中学校の教材は使わないというか、中1の国語とかそういうのじゃなくて、独自に進んでいくっていうことなんですかね。

#### ○山本教育指導参与

基本的には小学校6年生は小学校の教科書を持っていくという、ベースとしてはそこなんですけども、もう前段階でさらに進めることもやっている学校も、その義務教育校の中ではあります。ただ、転校・転出するときに、これだけこっちは進んでいるのにその差はどうするかっていうのは去年の講演会の中ではありました。

そういうのは、可能であるということです。

#### ○委員

例えばなんですけど、去年この洞爺中学校で夏休みが多くなるっていうことに対して、すごくイベントを減らさないといけなかったりしたので、それを踏まえると、こ



のいろんな資料があると思うんですけど、全部が全部組み込むっていうのは、難しいなって、ちょっと感じたりもしてるんですけど、それが例えば、小中一貫になって、ちょっと授業に余裕が出て、こういうのをより差し込めるっていうこともあるっていうことですかね。

#### ○山本教育指導参与

まさにそうなんです。

その授業が増えて学ぶ部分も増えていきながら、どうするってなったときに、例えばこのふるさと教育の中でも、ここでも教科横断的っていうか、国語のところを重ねたり算数のところを重ねたりっていう、それを重複させないという取り組みも今大事になってきて、教科横断型というのですけども、そういった中で若干授業を減らしながら、ここに特化しながら、そこで社会と繋がりを持ちながら、地域と繋がりを持ちながら、やっぱりそこをちょっと鍛えていくっていうか、いうことをしていないと、学校だけの学びであれば、それは今後、何に生かされていくのかっていうところがやっぱり大事になってくると思うんで、やっぱり将来生きていく、生計を立てて、本当に主体性を育てていくためには、そういった部分で刺激を受けていながら、自分が当事者意識を持って進んでいくっていうところが非常に大事になっていくのかなとは思っています。

#### ○委員

今主体性の話で、先ほど委員の意見にあった主体性ってわかりにくいのですが、僕は自分で考えて自分で問題解決していくというか、自分からできるっていう形の力だと思うんですけども、この義務教育学校のメリットは加配ができるっていうのは、すごく重要だしいいなと思うんですよ。ここの3番目の新たな学校文化を構築しようと教職員に興味があると、これ絶対出てくると思うんですよ。この今のメンバーで今の教職員たちで作るってなったら、やっぱり学校に行けば起きると思うし、なんか立ち上げの盛り上がりとかあると思うんですけど、なんでその義務教育校なのか小中一貫なのかわかんないですけど、ここすごくチャンスなので、何がチャンスかというと、子どもたちの主体性を作るチャンス。自分からやるっていう、その体験ができるチャンスだと思うので、知ってる方もいらっしゃるかもしれないけど千代田区立麴町中学校の工藤勇一先生がやってる、ここで先ほどもお話があった学校運営協議会の中に子どもたちが入る。実際に子どもたちが入って避難訓練を実際に自分たちで変えたんですよ。要するに先生たちはもう黙っててくださいと。先生たちについてい

くんじゃなくて、子どもたちが自分たちでやらないと意味がないからってことで、自分たちで避難訓練をやって自分たちで公表して、自分たちが新たなものを作るみたいな、そういう子どもたちが出てきたっていうところで、今回のその義務教育校化とか、小中一貫化とか、そこに子どもたちが自分たちでこういうふうにした方がいいっていう、立ち上げの体験ができるすごくチャンスな気がして、何か子どもたちにうまく入ってもらいながら、この新しい学校を作っていく。これってすごく主体性になるというか、もう一生忘れられない、自分たちは学校作ったんだっていう感覚を持てるようになる気もするんですね。すごくそれって、先生たちがめちゃくちゃ大変になると思うんですけども、でも、なんかすごくせっかくのチャンスだから、そういう体験を子どもたちにさせることで本当の主体性を見つけてもらえたらなっていうのをちょっと感じます。

#### ○鈴木会長

どんどん具体的な、なんですかね、こういう方向性っていうものが具体的に各委員さん方から出てきているのかなと思います。

当初はソフト面で子どもの目指す子ども像みたいなもので議論していった中で、徐々にやっぱり教育環境をどうするかっていうところで、答申の項目にある程度盛り込めるような内容が出てきているかなと思います。後いかがでしょうか。

#### ○委員

財政収支のこういう例を出されると、こっから出す答申に何か将来的な建設的な答申というか、しにくくなるんじゃないかと思うんですよ。お金がかからない教育をやりなさいっていうような形になっちゃうんで、あんまり出して欲しくなかったですね、という意見です。

#### ○鈴木会長

もうシャットアウトされちゃいますよね、シャッターを降ろされてしまって、もう予算はないぞって。ただ当然ですね、こういうところはやっぱり予算づけは必要だっていう議論はこの会からも出して行くのも一つなのかなと思うんですね。これはやっぱり洞爺湖町の子どもたちのためにも必要だから、このあたりの教育予算は何とか確保してほしいとかもやっぱり1項目あってもいいのかなと思うので、ぜひそのあたりも含めて議論されていくことが大事かなと思います。

## ○委員

児童数が減少していくっていうのがもうはっきり見えてきてる中で、さっきの提言の中でも10年前に作ったものと、今の現状では全く違う。これからのこと、新しいまた次の10年後のことをここで話していかなきゃ駄目な時期だと思います。

2回目の会議のときにみんなで施設をぐるっと回って見て、あっちが雨漏りしてるだとか、ここは駄目だっていうのが、僕らも見えて帰ってきて、さっき言った通り、財政の話をガッツリ言われて、それ以上何も言えなくなったっていうのが現状だったんで、それは本当僕も困りました。

ただ、やっぱり子どもたちのためって思えば、ここで区切りを打たなきゃ駄目だっていうので、多分今回の小中一貫ではないですけど、まず虻田中学校を移転するっていう流れになったと思います。この決断というのはやっぱり教育長が多分してくれたのかなと。僕も前の虻中のPTA会長として声を出してきましたけど、どうにか子どもたちをあの学校から出して、違う学校に移してくれだとか、新しいのを作ってくれっていうのを要望してきたんで、まず動いてくれたのかなと思ってます。

やっぱり僕らからも声を出して、小中一貫校やってほしいっていう想いもあります。そして、例としては今回虻田小学校と虻田中学校がこれから令和8年度に統合になって、小中一貫ではないですけど、一緒にやってくっていう話になってます。その中でもやっぱりさっき他の委員さんが言ってましたけど、洞爺地区でもそういう流れはあるんだと。それはあるけど、実際今は入れませんと。中学校が小学校に入れませんかとか、いろいろあるけど、虻田中学校も古かったけど、見た通りとうや小学校も同じぐらいにできて、ある程度いろいろ補修したりして直してはいますけど、これから先あと10年、15年もつかって言ったら僕はそうは思わないです。それを見込んだ10年後15年後の話を今ここでしていかなきゃいけないのかなと思ってます。

次の回、次の回と先延ばしにしていくと駄目だと思うんで、やっぱりいろんな建物、今保育所も本町地区で合併になりますけど、そういう建物をいろんなものを作るけど、やっぱり子どもたちに必要なものは作ってほしい。虻田中学校は虻田小学校と一緒になるけど、この建物がはたして15年後20年後もつかと言ったら、もたないと思います。でもその先を見込んで、次はこのぐらいにもう作ってくれと、さっきもこの資料にありましたけど、令和20年度には洞爺中が複式学級になると、ほとんど出ます。なので、もう洞爺地区はここに移すだとか、小学校を洞爺湖温泉小学校が新しいので、そこに入れちゃうだとか、いろんなケースがあると思うんで、それか、もう財政が大変だったら、本町に全部集めちゃうとか、1個にしちゃうとか、そういう決断もどっかでしなきゃ駄目だと思うんです。なので、やっぱり洞爺には洞爺の文化が

あって流れがあって、給食センターの話も今ありましたけど、いろんなこういうやり方やってほしいんだって要望もあります。本町地区でも本町地区でこういうやり方やってるから、もっとやってほしいっていう要望もあるけど、でもやっぱり財政が洞爺湖町でできないのであれば、どっかの区切りで一つにするだとかっていう決断をしてほしいと思います。なので、これを教育長に言ったら、悪いけど決断してほしい。そうすれば、僕らも合わせて応援していくっていう形になっていくと思うんで、それは上の方でやってほしいなと思います。

以上です。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます力強いお言葉でした。

いや、まさにこれがこの審議会の中できちっと1項目残さなきゃいけない部分じゃないのかなって、今のお話ですね。あとはそれを上の方にといいですか、教育委員会サイドとか、町長部局の方にもいろいろと持っていきながらやっていくっていうことが、この審議会の役割だと思うので、今の委員のお話はしっかりと記録していただいて、項目として入れていただけるとありがたいなという感じがします。

あとどうでしょうか。時間もそろそろ、最後に何かどうでしょうか。

#### ○委員

やっぱり子どもたちの心の中とか体の変化がね、私達のころは大人になるのが中学校1年から3年ぐらいなんですよ。今小学校のいろいろ地域の子どもたちとお話していると、小学校4年生から小学校6年生ぐらいになるまでに、もう大人になっていく。そういう体のすごい変化の大きいときにね、はたしてこの一貫教育ばかりを見つめていいのかって。その子どもたちの心を考えたときに、本当に手厚くその心を成長の心をみてあげることができるのかなって不安に思ったんですけどいかがですか。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。

すごくそれも大事な心の部分ですね。今の成長過程を考えると、子どもたちはもう本当にどんどん早くなっているので、その部分で体力だとか、心の部分であるとか当然学力の部分もあるでしょうし、そのあたりが前回、前々回と各ワークの中で出された部分なので、この辺りもぜひこの答申の中にも入れながら、こういう意見が出たというところで整理できていけばいいのかなと思いますので、そのあたりも含めて事務

局の方でお願いしたいなというふうに思います。

どうでしょうか。よろしいでしょうか。

#### ○上林副会長

先ほどの会長の話と重なるんですけど、10年前に作られたこの適正配置とか考え方は、その当時は一生懸命考えられた案だと思うんです。それが今でも残って続いているわけですけど、確かに適正配置っていうと、いわゆる人数から考えた学校の規模のあり方なんですよ。これはもう通用しませんよね。

確かに、特にこの洞爺地区では通用しないので、新しい考え方が必要になったってことなんじゃないでしょうか。その一つの方策として、小中一貫という考え方があって、小中一貫が全部正しいかっていうと、また議論をしなければいけないところがあると思うので、一つの方策として小中一貫があるっていう方向性でこの後議論していくといいのかなというふうに感じた次第です。

ありがとうございました。

#### ○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。

上林副会長の方からもお話ありましたが、やっぱり時代の流れを、適材適所ですけどその適性ですので、その都度その都度の時代でどう捉えていくのかということが非常に大事ですし、洞爺湖町は本町と洞爺地区と温泉地区もあるんですよ。ですから、この三つがやっぱり全体としてっていうことで考えていかなきゃいけないということで、温泉地区の方って今この委員の中でおられるんですか。その辺り、温泉地区としてっていうあたりも、ちょっとお話いただくと、本町そして洞爺地区もお話していただきましたので、ぜひそこはお願いいたします。

#### ○委員

学校運営協議会とか出てなくてちょっとわからないんですけど、温泉はまず建物がすごく新しく綺麗なので、温泉地区の意見は僕すみません言えないんですけど、温泉地区にいる一保護者として言えるのは、新しいけれどちょっと小規模なので、もしかするとここにそれこそ小規模な、わからないですが洞爺小・中かわからないけども、ただいろんな考えがあると思うんであれなんですけど、ここは生かすことにはきつとなるんだろうなと思いながら、ただ小規模なので、これをどう生かしていくんだろうっていうのはすごく思いますよね。ただ空間はものすごくいいので、どういう残

り方をするんだらうっていうのは、すいません。

○鈴木会長

やっぱり少人数というか、小規模校での子どものいわゆる成長を見守っていくときに、ある程度人数がいらないとお互いに刺激し合いながら、その中で主体性だとかそういうのも生まれてくることを考えたら、ある程度の人数の中で学んでいく、またはお互いを見合うということも大事なので、この辺りはこの後、この審議会も次もありますので、いろいろとさらに委員さん方のご議論をいただきながら、答申の中にも具体的に盛り込むことができればなと思います。そんなことで今日の話し合いの方は、終わりたいというふうに思いますがよろしいでしょうか。

《「異議なし」の声》

それでは事務局の方で次第の4番目、次回のことについてちょっとお話いただきたいと思います。

○細江教育推進課長

長時間にわたり貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございます。

今回の会議ですが、来月また10月にも開催したいと考えております。時期といたしましては、中旬から下旬ぐらいの日程での開催を考えております。この後、日程調整をさせていただきますので、来週中にはまたご連絡をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

次の内容といたしましては、今回の学校施設の部分の続きの部分、あと学校施設としては給食センターがございまして、その後、今度は社会教育施設としてプールですとか、町民の文化施設ということで入江高砂貝塚とか、社会教育の部分でも施設がたくさんございまして、その辺の部分についてお話をさせていただければと考えてございます。

この後の予定といたしましては、次回にこの残りの部分の施設からいろんな部分での皆様からのご意見をいただきまして、その後11月、できれば12月の2回ぐらいで答申案についての最終的な内容のご検討をいただければと考えておりますので、すいません、毎月の開催にこの後もなってくるかなとは思いますが、その都度ご連絡をさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます、どうもありがとうございます。

○鈴木会長

はい、それではこれで終了しますけども、今日はいきなりちょっと脂っこい話とい  
いますか、小中一貫だとかですね箱ものの話も出てきました。ただ大事にしていきたい  
のは、洞爺湖町の子どもたちのために「学び」をこの地域全体でどうするのかって  
いうことを、まずそれを骨太にしながら各委員さん方のご意見などをいただきながら  
答申の方に整理していければなと思いますので、次回 10 月、第 7 回ということでご案  
内申し上げますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

以上をもちまして第 6 回の審議会の方を終わりたいと思います長時間どうもありが  
とうございました。